

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年12月1日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「カブトムシの幼虫の観察を通しての探究活動」

<テーマ設定理由>

虫に興味を持っている姿がよく見られ、散歩に出掛けた時にはバッタやてんとう虫、蝶々等、見つけると嬉しそうに知らせてくれたり捕まえようとしていた。園庭でクワガタを捕まえたので、クラスで飼育することになり、当番の子どもを中心に世話をし、恐る恐る触れたり、だんだん慣れてきて虫同士を戦わせようとしていたり、その様子をじっと見ていたり、それぞれが興味を持ち関わってきた。生や死にも直面して不安になったり、その不思議さを体験することで新しい発見もあり、今回はカブトムシの卵がどのように成長しているのかを見てみる。

### 2. 活動スケジュール

<これまでの経過>

6/5(木)園庭でクワガタを捕まえる→クラスで飼育し始める

6/27(金)園庭でクワガタを捕まえる

7月に入り職員から更にクワガタ6匹、7月終わりにはカブトムシのオス2匹とメス2匹をもらい、当番の子どもを主に世話をする

8/19(火)カブトムシの卵や幼虫を発見

9月以降クワガタやカブトムシが死んでしまい、お墓をつくって弔いをする

9/26(金)カブトムシの飼育ケースの中身を確認すると幼虫がいなくなっていた。同じケースに置いておくと、成虫が食べてしまうことを知り、卵(12個)と成虫を別のケースで飼うことにした

10月半ばにはカブトムシの成虫も死んでしまった。

カブトムシの卵の入っているケースは、毎日当番の子どもが霧吹きをして水やりをする

飼育ケースの側面から幼虫が見えることもあり、成長を楽しみに世話を続ける

11/10(月)カブトムシの幼虫の入ったケースの土を取り換えるときの様子を記録する

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・カブトムシの幼虫の入っているケース…ももとは12個の卵が入っていた
- ・新聞紙
- ・霧吹き
- ・新しいカブトムシ飼育用の土

### 4. 探究活動の実践<活動内容>

- ・新聞紙の上にケースの中に入っている土やカブトムシの幼虫を出す。
- ・カブトムシの卵12個がどのようになっているのかを確かめる。
- ・新しい土に変えて霧吹きで湿らせ世話をし、幼虫の成長を楽しみにする。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

飼育ケースをひっくり返して中身をだしてみると

T…「うんこしすぎー うんこだらけの幼虫、うんこ食べちゃうんじゃない？」

「先生、今、うんちしてるよ。うんちでたーって喜んでー」

保育士…「カブトムシの卵は12個あったから、幼虫も12匹ちゃんといけるかなあ」

T…「1, 2, 3, 4…」

H…「うわー」「あ、もう土にもぐっちゃってるよ」

N…「やばい、これ」

K…「きもちわるい、これ全部うんこなのか？」

D…「先生、触ってもいい？」(触っては、ドキドキしてパッと手はなしてしまう)

保育士…「幼虫は赤ちゃんなんだから、どんなふうに触ったらいいのか、考えてみてね」

T…「やさしくー」

S…「なんか見たことある幼虫だ」(持ってみようとするが、手放してしまう)

H…「あそことか(あそこの幼虫とか)、どんどん土にもどって行くよ」

みんなで数えながら飼育ケースにいれていくと、12匹の幼虫を確認できた

R…「先生良かったねえ、みんな生きてて嬉しいね」



### 5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

・初めは虫に興味を持っていた子ども達も、飼育をしていく経過を通して、死んでしまったり、卵を産んでいたり、幼虫になったりといろいろなことが起きることで、驚きやさまざまなことを感じたり考えたりすることができた。

・土の中で一体何が起こっていたのか、まさかこんなにもうんこだらけになっているとは、そしてあんなに小さかった卵がこんなに大きな幼虫になっているとは…凶鑑だけではわからない感動があった。

・触ってみたい、でも怖い、でもちょっと触ってみよう…と葛藤しながらも自ら関わってみようとする気持ちが多く見られた。

・実体験が子ども達の心を豊かにしていることが目に見えてわかった。

・後から園長先生が「うんこだらけの土」を、畑の栄養にしてくれたことを、子ども達に伝えてくださった。うんこが土の栄養になることを子ども達はとても不思議がっていた。

・野菜や花の栽培をしてきたが、今後は土にも興味や関心を持つことが予想される。子どものどうして、なぜ、の気持ちを大切にしながら環境を整え、その気持ちに答えられるようにしていきたい。